

「平成20年度第1回富県宮城推進会議幹事会」 会議録要旨

日 時：平成20年5月26日(月)午後3時から午後5時まで
 場 所：宮城県行政庁舎4階 特別会議室
 出席団体：資料名簿のとおり

1 開 会(司会：宮城県経済商工観光部富県宮城推進室 熊谷副参事)

2 あいさつ(東北大学 渡邊理事(幹事長))

- 先週の19日には、県と市町村など関係団体の共催による企業立地セミナーが、自動車産業の拠点である名古屋市内で4年振りに開催されるなど、自動車関連産業の一層の産業集積を図る取組が着実に進められている。
- また、今年10月には「伊達なバス旅」といった名称で、県内各地を結ぶ仙台発日帰りバスツアーの企画を始め、数多くの地元ならではのイベントの準備が進む「仙台・宮城デスティネーションキャンペーン」の本番を迎えるなど、設立2年目を迎え、この富県宮城推進会議においては、一層積極的な取組が期待されているところである。
- こうしたなか、本日は、参加団体の皆様から、「富県宮城の実現」に向けた取組の状況と今後の取組予定などを報告して頂くとともに、富県宮城推進会議における今年度の取組計画について協議することとしている。
- 限られた時間ではあるが、「富県宮城の実現」に向けた飛躍の年となるよう、年度計画の策定に向けて、御協力よろしくをお願いしたい。

あいさつ(宮城県 北村経済商工観光部次長(代理))

- 昨年度は、会議の設立初年度にもかかわらず、団体間の協働化した取組や、「みやぎ発展税」を活用した取組などに対し、積極的な御議論、御提案を頂戴するなど、「富県宮城の実現」に向けて多大な御尽力を頂いておりますことに対し、心より感謝申し上げます。
- さて、3月に公表された宮城県の平成18年度の経済成長率と県内総生産額は、名目で0.5%増加の8兆5,691億円、実質で1.2%増加の9兆2,887億円となっており、県内総生産10兆円を達成するためには、第1次産業から第3次産業までの各分野で、「富県宮城の実現」に向けた一層の取組が必要となる。
- 県としては、平成20年度を「富県宮城の実現」に向けた加速の年と位置づけ、特に「みやぎ発展税」を活用した事業を積極的に展開することなどにより、県内総生産10兆円の達成をより確実なものにしていくこととしている。
- 富県宮城推進会議も2年目を迎え、昨年度と同様「富県宮城の実現」に向けた積極的な取組が期待されているところであり、各団体におかれても、主体的に取り組んで頂きますよう、よろしくをお願い申し上げます。

3 議 事

(1)「富県宮城の実現」に向けた各団体の取組実績及び取組計画について

国土交通省(東北地方整備局,東北運輸局)から資料5に基づき「平成20年度の宮城県内の主要事業」について説明,続いて出席団体,東北農政局及び東北経済産業

局から資料3を中心に「富県宮城の実現」に向けたそれぞれの取組計画について説明

東北大学 渡邊理事（幹事長）

各団体から「富県宮城の実現」に向けた、主に平成20年度の取組計画の説明があったが、これに関して質問はいかがか。

質問はなし

（2）団体間で連携可能な検討テーマ（案）について

東北大学 渡邊理事（幹事長）

昨年は、団体間で連携可能な取組として、一つはデスティネーションキャンペーンに関し「観光」を取り上げた。それと「人材育成」という二つのテーマを検討してきた。平成20年度の団体の取組計画を見ると団体間連携可能なものがあるように考えられるが、平成20年度も引き続き連携可能な取組を検討していくこととしてよろしいか。

（社）みやぎ工業会 白幡副会長（副幹事長）

製造業と一次産業との違いがあるが、成長させるための人材の確保が本当に大丈夫なのかということ、それぞれきっちり皆で再認識する必要があるのではないか。

そのような視点でいうと、19年度は「産業人材」の検討を行ったが、工業会としては、20年度においては人材の確保の観点からシミュレーションを行い、供給と需要、質の面でマッチングするのかなど、是非一つは連携を検討してみてもどうかと思う。

東北大学 渡邊理事（幹事長）

具体的には連携可能な「人材育成」ということで説明があったが、御異議がないようなので、前年と同じように団体間で連携可能な取組を今後とも検討していくこととする。

団体間で連携可能な取組検討テーマ案について、事前に各団体から提出されており、資料6に取りまとめている。今後の進め方について事務局から説明願う。

事務局（富県宮城推進室 加藤室長）

（資料に基づき説明）

検討テーマについては、昨年度と同様に二つくらいに絞り込んでいただき、幹事会ではフレームの策定を9月頃までをお願いしたい。

東北大学 渡邊理事（幹事長）

人材育成は、どの時代においても、大事なキーワードである。今後とも「人材育成」をどのように進めるかに関しては、幹事会で取り上げて協議していく必要があると考えている。

今年度の検討テーマ案については、既に御提案を受けているので、その内容について、どういった団体との連携が想定されるかなどを含めて、説明願う。

（社）みやぎ工業会 白幡副会長（副幹事長）

工業会の提案としては、大きく分けて3つある。一つ目は「人材確保と育成」、二つ目は「産学連携」、これには「ニーズ先行型」の産学連携と「シーズ先行型」の産学連

携がある。「ニーズ先行型」の産学連携としては、「KCみやぎ」であり、「シーズ先行型」の連携は東北大学の産学連携推進本部との連携であるが、工業会に限らず産業界として、連携を更にどう進めるかが課題である。

三つ目には「ブランド化」。県内で元気が良い中堅・中小の製造業をどう継続して排出していくかが重要であり、そのための各団体の支援サポート、支援事業があるものの、効果の面で今後最適化を図っていく必要がある。既に工業会の政策委員会で、各団体に参画して頂いているが、もう少し輪を広げて検討していくことができるのではないかと。

宮城県商工会議所連合会 佐藤理事・事務局長

19年度は初年度ということもあり、スキーム作り、体制作りであった。20年度はこれをもとに具体的に「人材育成」を実際に進めていきたい。工業会からも話があったが、工業会、KCみやぎ等と連携を密にしながら具体の事業を進めていきたい。

宮城県観光誘致協議会 小松副会長（代理）

DCに向けて、時間がなかったため、体験型の観光を大急ぎでつくったが、ポストDCに向けて、せっかく出来上がった1次産業の方々との連携を密にし、出来上がった商品をブランド化していきたい。

実際、松島では農業の方が米を作り、また3次産業のホテル等のメンバーが田植えから稲刈りまでをして、酒を造ったが、お客様に大好評だった。今年度は昨年2倍の量を確保することにしているが、これまで交流の無かった1次産業と3次産業との結びつきが出てきており、これを機会に是非このような取組を積極的に取り組んでいきたいという意味でテーマを提案した。

東北大学 渡邊理事（幹事長）

それぞれの団体が、それぞれの工夫の中で努力なされている。このような中、富県宮城推進会議が存在することは、それぞれの異業種の連携を検討する上で、極めて大事なことと思う。この件に対して、御意見いかがか。

宮城県農業協同組合中央会 阿邊常務理事

先ほどの説明の中で、仙台北部の工業団地に立地する企業では、現在3千台の自家用車通勤がなされているとのことであるが、今後、セントラル自動車の関係も加わり、このような人が「食べる」ということをどのように考えているのかと思う。最近、隣県で、そういうものに対応するとの話が聞こえてくる。

本県は、地産地消、県産県消を提唱しており、我々農業団体としても、社員食堂などの食材に地場産のものを食べていただくため、企業と行政、関係機関と我々々が連携して取り組んでいく必要があるのではないかと。

3千人ということであるが、家族を含めたら相当な数になる。観光消費の食料消費金額は、他県で調査した結果、10%程度と聞いているがそれでも大きいし、なお定住の方への食材をきちんと提供していくことは重要なことではないかと。

東北大学 渡邊理事（幹事長）

今日、資料を見ただけでは、具体的にどのようなものを連携可能テーマとして行っていくか決めるのは十分でないと思うので、次回の幹事会で再協議をして、連携可能テ

マを決めていきたいと思うがいかがか。

了承

(3)「富県宮城の実現」に関する表彰制度について

(富県宮城推進室 加藤室長が資料7に基づき説明)

東北大学 渡邊理事(幹事長)

「(仮称)富県宮城グランプリ表彰制度」は、自薦、他薦のどちらでも良いのか。

事務局(富県宮城推進室 加藤室長)

事務局としては、今のところ、自薦、他薦はありと考えている。団体からの意見をいただくこともあるかとも思っている。

東北大学 渡邊理事(幹事長)

表彰制度は、あった方が良い。このような表彰制度を設けることによって、良い意味で競争が出てくるはずであり、そのような方向に持っていければと思う。前向きに検討していただくこととしたいので、事務局よろしく願います。

了承

(4)年間スケジュール(案)について

(富県宮城推進室 加藤室長が資料8に基づき説明)

了承

(5)その他

【今後のスケジュール】

事務局(富県宮城推進室 熊谷副参事)

第1回富県宮城推進会議は6月4日、次回の幹事会は渡邊幹事長と調整の上、7月上旬に開催予定。

4 閉 会